

■橋広相 学者官人。藤原基経の関白任命するべく草した詔が、阿衡紛議の因となり、心労のためか直後に早世。  
たちばなのひろみ  
遣唐使再遭難 837= 生。岩範の二男。母は藤原末永の女。名は初め博覧。\_橋奈良麻呂の5世の孫。

承和の変・・・ 842= 5歳：

良房右大臣・ 846= 9歳：

・・・・・・ 855=18歳：

人民摂政の実 858=21歳： \_早熟の秀才で菅原是善に師事し、

・・・・・・ 860=23歳： \_文章生となり、出身する。

富士山噴火・ 864=27歳： \_藏人に任ぜられ、対策に及第。

応天門の変・ 866=29歳：

・・・・・・ 867=30歳： 従五位下に叙せられ、\_文章博士を辞して就かず、

・・・・・・ 868=31歳： 広相と改名した。字を朝綾という。

貞観格成立・ 869=32歳： \_貞明親王が皇太子に立てられると、東宮学士に任命され、

清和源氏始・ 873=36歳：

・・・・・・ 875=38歳： この年広相の撰した「神護寺鐘銘」の序文は有名である。

・・・・・・ 876=39歳： \*貞明親王が陽成天皇として即位すると、東宮学士の功により、従五位上から一階越えて正五位上に昇叙、藏人頭となり、さらに従四位下へと叙位を重ね、次第に確実な地歩を占めた。

・・・・・・ 882=45歳：

基経関白の実 884=47歳： 従四位上に累進、即位した\*光孝天皇の侍読となり、菅原道真とともに文章博士に再任され、参議に昇進。

・・・・・・ 885=48歳： \_刑部省断案に対する公卿奏状において、中納言在原朝臣行平とともに少数意見に固執して譲らず、半年後によく加署を承諾している。広相・行平以外は藤原氏7、源氏6をもって構成された年初の廟堂の中で、頑として自説を主張した点に、広相の剛直な政治姿勢がうかがえるが、文華を好んだ宇多天皇の信任厚く、女義子は宇多の女御となって2皇子をもうけた。

・・・・・・ 886=49歳： \_左大弁に進み、参議・勘解由長官・文章博士を兼ねて政界に重きをなした。

宇多天皇即位 887=50歳： \*宇多天皇の即位とともに藤原基経が関白となったが、命により起草した勅答に'よろしく阿衡の任をもつて卿の任となすべし'の句があった。基経が家司藤原佐世の言をいれて阿衡事件となり、その責任を問われる危機的な立場に追いこまれたが、道真の奔走や天皇が基経に譲歩したことなどもあり、急転直下解決、

関白始・・・ 888=51歳： \_詔によってその罪を免ぜられたが、

基経関白辞任 890=53歳： 事件落着後1年を隔てて、\*没した。没後、侍読の労により中納言従三位を追贈され、喪家に穀倉院の絹布などを給わる破格の厚遇を受けた。